



にとな便利



第49号

令和8年1月

〒260-8712 千葉市中央区仁戸名町673 TEL043-261-5171

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター 千葉東病院



新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

皆さまが健やかに、そして穏やかな気持ちで新しい年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

平素より、国立病院機構千葉医療センター千葉東病院をご利用いただき、また当院の医療活動に温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。通院や入院の中でお寄せいただくお声や、日々の診療を通じて交わす何気ない言葉の一つひとつが、私たち職員にとって大きな励みとなっています。



院長 古川 勝規

当院は、地域の皆さまにとって身近で安心できる病院であることを大切にしながら、専門性を生かした医療にも力を注いでまいりました。国立病院機構の病院として担う政策医療など、それぞれの分野において、患者さんお一人おひとりの状態や生活背景に配慮した医療の提供を心がけています。

病気や治療に向き合う中では、体のつらさだけでなく、先の見えない不安や心配を感じることも少なくありません。私たちは、そのようなお気持ちに寄り添い、少しでも安心して治療に臨んでいただけるよう、わかりやすい説明と丁寧な対応を大切にしています。小さな疑問や不安でも、どうぞ遠慮なくお声がけください。

また、医師や看護師をはじめ、薬剤師、リハビリスタッフ、事務職員など、さまざまな職種が連携し、チームとして患者さんを支える医療を進めています。職員一人ひとりが「自分の家族を診るつもりで向き合う」ことを心に留め、日々の診療にあたっています。

本年も、地域の医療機関や関係機関と連携を深めながら、皆さまの健康と安心を支える役割を果たしてまいります。これからも、安全で質の高い医療を提供するとともに、心の通った医療を実践してまいります。

結びに、この一年が皆さまにとりまして、健康で穏やかに過ごせる年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年も千葉医療センター千葉東病院をどうぞよろしくお願いいたします。



市民健康づくり大会へ初参加

糖尿病看護認定看護師 名和 晃司

10月18日、千葉市主催の「市民健康づくり大会」に当院から、感染管理、糖尿病看護、認知症看護の認定看護師3名が参加しました。地域の方々へ、健康の大切さを考えていただける機会を提供できたらと思い初参加しました。当院のブースでは、白内障や視野狭窄の見え方を体験できるコーナーを設け、加齢や疾患による視覚の変化を実際に感じていただきました。また、認知症の簡易チェックを行い、早期発見・早期相談の大切さについて説明しました。ブースには様々な年齢の方が訪れ、白内障や視野狭窄の体験では「周りが白い、面白い」「こんなに見えないなんて、怖いわ」と反応も様々あり、お子さんには面白体験、大人では、恐怖体験?となったようです。



当日は100名を超える多くの方にブースへお立ち寄りいただき、終始にぎやかな雰囲気となりました。来場記念としてお配りした「ちばとん」グッズも喜んでいただき「千葉東病院にもマスコットがいるんだね、かわいい」と大好評でした。新たな人気者の誕生を予感させていました。地域の皆さまとの交流を深める有意義な機会となり、今後も当院では、地域に開かれた健康づくりの取り組みを継続してまいります。

いきいき応援クラブ

1病棟・手術室看護師 御園 亜実

1病棟では、高齢の患者様を対象に認知症予防のレクリエーションを行う「いきいき応援クラブ」を開設しました。レクリエーションは、体を動かす、手先を使う、音楽に触れる、対人交流を図ることができます。このような活動は、脳の活性化を促し心身機能の向上や維持につながります。

活動内容は、体を動かす運動レクリエーションと手先を使いながら季節を感じる飾りを制作するレクリエーションを毎月ごとに開催しています。運動レクリエーションでは、玉入れ、風船バレー、ワニワニパニックなどをチーム対抗戦で行い、とても盛り上がっていました。制作レクリエーションでは、夏は海の生き物、秋はぶどう、冬はクリスマスツリーを作りました。制作したものを病棟の廊下に掲示し、写真をカレンダーにして病室に飾り、季節感を感じてもらっています。参加された患者様からは、「とても楽しかった。」「リハビリとは違う良い運動ができた。」「レクリエーションを通して他の人との交流ができた。」などの声をいただいています。今後も参加される患者様に、楽しんでいただけるようなレクリエーションを計画していきたいと考えております。



病診連携の会を終えて

地域医療連携係長 萩原 久子



当院は国立療養所千葉東病院として昭和13年に創設され、神経難病や重症心身障害、結核などセーフティネット医療を担ってきましたが、平成16年に国立佐倉病院と統合され、千葉東病院となりました。腎臓病や糖尿病、リウマチ・膠原病など慢性疾患の医療を加えた医療施設として変化してきました。そして、今年度4月1日より千葉医療センターと一組織二病院での組織運営となりました。名称も千葉医療センター千葉東病院と変更されたため、改めて地域の医療機関に向けて、当院の機能や役割を理解していただくために、病診連携の会の開催に至りました。

当院が得意とする疾患や治療の説明を各診療科の医師より行いました。懇親会では相互理解の場として、情報交換などを行いました。限られた時間ではありましたが、34施設56名の方々の参加があり盛況で終えることができました。

これからも顔と顔が見える連携を心掛けるために、定期的な病診連携の会の開催を考えております。地域にとって「面倒見のよい病院」として、職員一同邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



各診療科の紹介



懇親会の様子



季節の健康レシピ

サツマイモサラダ



【作り方】

1. サツマイモを5mm幅のいちょう切りにする。
2. 切ったサツマイモを10～15分ほど水にさらしアクを抜く。
3. きゅうりは2mm幅の輪切りにする。
4. 鍋にサツマイモを入れ、イモが浸るくらいの水を加えて中火にかける。
5. 沸騰後10～15分ほど茹で、竹串がスッと通るくらいのやわらかさになったらザルに上げ、水気を切る。
6. 粗熱が取れたらボウルに移し、きゅうり、レーズン、食塩、マヨネーズを加えて優しく和え、器に盛る。

【材料(2人分)】

- ・サツマイモ(皮剥き)...140g
- ・きゅうり ...30g
- ・レーズン ...6g
- ・食塩 ...少々(約0.2g)
- ・マヨネーズ...大さじ2(約24g)

【栄養量(一人当たり)】

エネルギー:180kcal
たんぱく質:1.0g 脂質:8.8g
炭水化物:24.0g 食塩相当量:0.4g

【調理のポイント】

サツマイモは水からゆっくりと火を通すことで甘みが増し、美味しく仕上げるができます。



栄 養 管 理 室

診療科紹介

腎臓内科

診療部長（血液浄化センター長） 首村 守俊

腎臓内科は、慢性腎臓病（CKD）をはじめ、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、糖尿病性腎症、遺伝性腎疾患など、幅広い腎疾患の診療を専門としています。腎臓は自覚症状に乏しいまま障害が進行することが多く、早期診断と継続的な管理が極めて重要です。当科では、検尿異常や軽度腎機能低下の段階から専門的に介入し、腎機能の維持・進行抑制を目指した診療を行います。



単独施設としては国内トップクラスとなる、年間100例を超える腎生検を含む精密検査による的確な診断と、エビデンスに基づいた薬物療法、生活指導を組み合わせ、個々の患者さんの病態に応じた治療方針を立案しています。免疫抑制療法を要する腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病関連腎障害についても、安全かつ適切な診療を行います。

また、透析導入前の保存期CKD診療から、血液透析・腹膜透析導入後の管理まで、一貫した腎代替療法に対応しています。患者さんの生活背景や価値観を尊重し、腎代替療法選択支援を含めた治療およびライフスタイルの提案を行います。必要に応じて腎移植施設とも連携し、切れ目のない腎疾患医療の提供を行います。

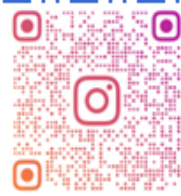
地域医療においては、かかりつけ医の先生方との連携を最も重要と考えています。検尿異常、eGFR低下、電解質異常、高血圧管理に難渋する症例など、ぜひご紹介いただきたく存じます。病状が安定した患者さんは継続診療をお願いし、当科は専門的評価や治療方針の提示を担う形での病診連携を積極的に行います。

今後も地域に根ざした腎臓専門医療を提供し、患者さんと地域医療機関の皆様方に信頼される診療科であり続けることを目指してまいります。



Instagramにて千葉東病院看護部公式アカウントができました！

当院でのイベントや日々の業務等発信して参りますので、フォローしていただければと思います！



NHO_CHIBAEASTHOSPITAL_NURSING